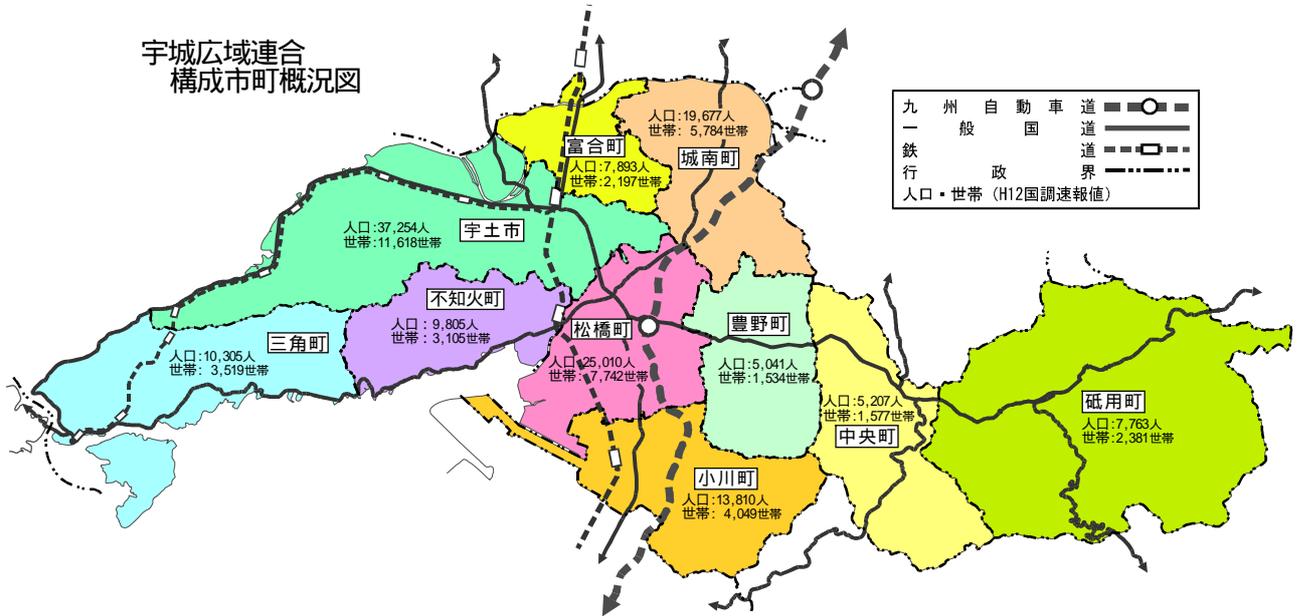


4 圏域内自治体の概要

圏域内の各自治体の概要は次のようになっています。



【宇土市】心ゆたかな環境創造の宇土市

宇土市は、圏域の北西部に位置し、宇土半島の山々を南に連ね、西に有明海、北に緑川河口の肥沃な土地が広がる温暖で自然豊かな都市です。

日本名水百選の轟水源や日本の渚百選の御輿来海岸など優れた自然と宇土城跡や網田焼窯跡に代表される歴史的な文化遺産が数多く点在しています。

現在の市街地は、古くは宇土藩3万石の城下町として発展し、その町

並みも今に受け継がれ、情緒漂う都市景観を形成しています。また、陸海の交通の要衝地にあたるため、古くから政治・文化の中心地として栄えてきました。

国道3号・57号・501号の主要道路やJR鹿児島本線・JR三角線の鉄道が結節する立地条件と市民生活に直結した基盤整備の効果もあって、通勤や通学、買い物、余暇活動などの日常生活において利便性の高い住みやすい都市になっています。

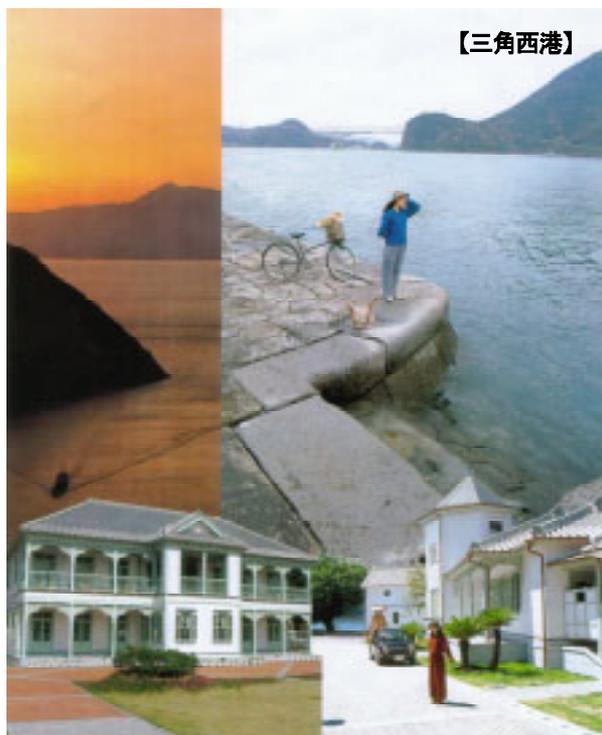
その結果、平成12年10月1日の国勢調査に基づく人口も37,254人となり、前回(平成7年)より6.41%増加しています。



### 【三角町】 誰もが住みたい三角町

三角町は、圏域の西部に位置し、宇土半島と天草島を連結するターミナル機能を有する港町です。陸路は半島の北岸を国道57号、南岸を国道266号が走り、JR三角線で熊本市と50分で結ばれています。海路は三角島原フェリーをはじめ、天草諸島への定期航路及び外国との貿易路が開かれています。

主たる産業は柑橘及び洋ラン等の施設園芸を中心とする農業と、明治20年に熊本県の玄関港として開港した西港（観光地として整備）と、東港及び花の島戸馳等をリンクさせた観光ですが、近年ではこれらに併せて生活・生産基盤の確立をめざし、石打ダムの建設、農業集落排水事業の推進並びに水田の圃場整備、農水産物直売所の開設等を終え、新たな飛躍を期しています。



### 【不知火町】 ロマンの火とフルーツの里

不知火町は、圏域のほぼ中央に位置し、宇土半島の基部にあたります。東は松橋町、西は三角町、北は山稜を隔てて宇土市に接し、南は不知火海に面する温暖な気候となっています。町土の大部分は丘陵地帯で、東部に平坦地を有する起伏にとんだ地形となっています。

町の西部に位置する松合地区は江戸中期から明治の中頃まで、県下有数の漁港並びに醸造



の町として繁栄し、集落の中には今でも当時の面影を残す土蔵白壁の町なみが残っており、町では伝統的、歴史的な町なみを保存し、郷土の伝承と歴史を通したまちづくりを進めています。

毎年八朔(旧暦8月1日)の未明、不知火海上に現れる神秘的な火「不知火」は、今から千数百年前、景行天皇九州ご巡幸の折、暗夜の海上にて天皇を導き、無事火の国の沿岸にお誘いした怪火がその始まりで、以来この火を「不知火」と呼ぶようになったと伝えられています。

【城南町】 火の君の里城南町

城南町は、圏域の北部に位置し、北は嘉島町、西は富合町、宇土市、南は松橋町、豊野町、東は甲佐町に接しています。

町の北端を緑川が東から西に流れ、左岸の北部一帯は平坦な地形をなし、町の中央部から東方にかけては舞原台地が広がっています。この台地と平坦部の境を中心に、町の中心市街地が広がっています。また、町の中央を南東から北西に浜戸川が流れ、その流域には平坦な水田地帯が形成し、南部一帯はおだやかな丘陵地帯を形成する中山間的な地形となっています。

町の産業は米、小麦、施設野菜(メロン、イチゴ等)を中心とした農業が主体ですが、近年では城南工業団地(約30ha)への企業誘致を推進しており、他の地区でも多くの優良企業が進出しています。

町内を走る九州自動車道は、北東から南西に走り、松橋インターチェンジまで約7kmと近く、また、南北に走る国道266号は、県南と熊本市を結ぶ主要な幹線道路として多くの車が利用しています。近年、交通網の発展等から住宅地を求めて町内に流入し、人口が増加しています。このため、町では土地区画整理事業や下水道事業を推進し、生産性豊かな田園都市をめざしています。さらには、町のシンボルである塚原古墳公園を中心に「火の君の里」づくりを推進しています。



【塚原古墳公園】

【富合町】 健康・安心・豊かな暮らしを創造する田園文化都市

富合町は、圏域の北部に位置し、北は熊本市、東は城南町、南西は宇土市と接し、南東部に木原山(雁回山314m)を擁します。町の北部を緑川、中部を浜戸川が東から西に流れ、広い水田地帯を潤して有明海に注ぎます。中央部を南北に国道3号、JR鹿児島本線が縦断しています。

町内には、国指定文化財の木原六殿宮楼門や火渡り、湯立ての荒行で有名な日本三大不動の一つ木原不動尊があり、祭りや自然に多くの人々が親しんでいます。

昭和30年、守富村と杉合村が「富を合わせて豊かな村を」の意味を込めて、富合村が発足し、昭和46年に町制を施行しました。現在は、都市計画の変更など押し寄せる都市化の波の中、基幹産業である農業との調和を図りながら、住民が健康で楽しく、生きがいをもって、安心して暮らせる町を目指し、居住環境の整備、福祉・教育の充実、産業の振興を推進しています。



【国道3号沿線】

【松橋町】住んでいる人も町並みも息づいている町づくりを

松橋町は、圏域のほぼ中央に位置し、町の西部をJR鹿児島本線、中部を国道3号、東部を九州自動車道がそれぞれ南北に走り、2本の国道と5本の県道がそれを縫うように縦横に交わっています。このような交通の利便性や宇城地区の中心に位置するという立地の優位性から、国や県の出先機関も多く集中し、宇城地区の中核都市とし発展しています。さらに、近年住宅地として人口も増加の傾向にあります。



【岡岳総合運動公園】

町では、福祉の充実に力を注ぐとともに、産業の振興や生活環境の整備、教育文化の振興など、物心ともに豊かで格調高い「潤いと風格のある町」づくりを進めています。

なお、松橋町の町名は「松橋」と書いて「まつばせ」と読みます。この町名の由来は諸説ありますが、「宇土半島はもと島であり、不知火海と有明海は海峡でつながっていた。その海峡は松葉の瀬戸と呼ばれ、その海峡名がそのまま『まつばせ』の地名になった」という説が最も有力です。

【小川町】若者が住む、活力に満ちた教育の町・おがわ

小川町は、圏域の南部に位置し、九州自動車道、国道3号、JR鹿児島本線が南北に縦断しています。東部は山間地帯で、西部は八代平野の一部を成す緩やかな平地となっています。また、砂川は町中央部を西に流れ不知火海に注ぎ、川沿いには30万本の花が咲き、コスモス街道として有名となっています。



【砂川沿線 コスモス街道】

町では、「若者が住む、活力に満ちた教育の町・おがわ」の実現に向けて「町中心部や都市地域の整備促進」、

「多様な担い手と消費者との関係づくりによる地域農業の振興」、「若者の定住を支援する魅力ある住環境の整備」、「高齢者と児童の交流機会の拡充及び豊かな学びの場と地域・学習センターの整備」などを21世紀へ向けた重点施策として積極的に展開しています。

また、町内には、83店舗を擁する大型ショッピングセンター、八つの映画館を有する複合型映画劇場及びゴルフ場など魅力的な大きい施設が存在するため、それらの利用促進を図るとともに、地域経済の浮揚や定住人口の増加につなげるための工業団地を造成し、企業誘致の増進に努めるとともに、更にはインターチェンジの建設促進など、県南拠点の活性化に寄与していきます。

【豊野町】 豊かな心と豊かな食文化を育てる町

豊野町は、圏域のほぼ中央部に位置し、三方を40～350mの山稜地に囲まれた小盆地を形成しています。また、町の中心部を東西に横断する国道218号、南北に縦走する県道32号の整備等により、各主要都市までの所要時間は大幅に短縮され、地域住民の生活圏も広域化し、町をとりまく環境も大きく変化してきました。

町では、「過疎からの脱却」の実現に向け、平成9年度から

「活力あるふるさとづくり条例」を定め、住民が豊かで暮らしやすい生活環境の整備（道路整備・企業誘致・上下水道整備等）を最優先に取り組んでいます。また、今後共さらなる発展を目指し、21世紀の節目に町制移行という新たな地域イメージを打ち出し、町民と町とが一体となった、活力ある21世紀の町づくりを進めています。

【アグリパーク豊野】



【中央町】 やさしさと対話の町づくり

中央町は、圏域の東部に位置し、北東部は甲佐町、東部は砥用町、南部は泉村、西部は豊野町、小川町と接しており、中部以南は山岳丘陵地帯で、森林資源に恵まれています。釈・院川が町を北に貫き、佐俣で津留川と合流し、さらに岩下で緑川に合流しています。また、浜戸川が北部一帯の盆地水田を灌漑し、豊野町、城南町を通じ緑川水系を形成しています。

今から400年前まで阿蘇氏の領地、甲佐大明神の社領でありました。その後加藤氏領を経て細川領となりました。

昭和54年度から「日本一の石段づくり」が始められました。釈・院御坂遊歩道に日本一長い3,333段の石段を積み上げ、途中には展望台などの施設を完備し、頂上からは不知火海や雲仙まで一望できます。石段の完成後は、年間約20万人の観光客が訪れます。

さらに、平成10年10月オープンした石段の郷「佐俣の湯」は、宿泊施設のロッジを完備し、年間約30万人以上の観光客で大変賑わっています。

【石段の郷  
「佐俣の湯」】



**【砥用町】 住みたくなるまち、誇りあるふるさと、砥用町**

砥用町は、圏域の東部に位置し、北は御船町、東は矢部町、南は泉村、北西は甲佐町、西南は中央町と接し、町の中央部を緑川が東西に貫流し、国道218号が東西に走っています。

南部は標高千メートルを超える雁俣山などの九州山地がそびえ、山麓の河川流域部を除き、町の大部分は丘陵地帯から急峻な山岳部に連なる山岳と渓谷に恵まれた自然美豊かな町です。

町では、これらの恵まれた自然環境と共存した町づくりを視野に入れながら、住環境、教育、福祉の整備と産業、観光の振興を図り、将来を見据えた人材の育成に取り組んでいます。



【国指定重要文化財霊台橋】